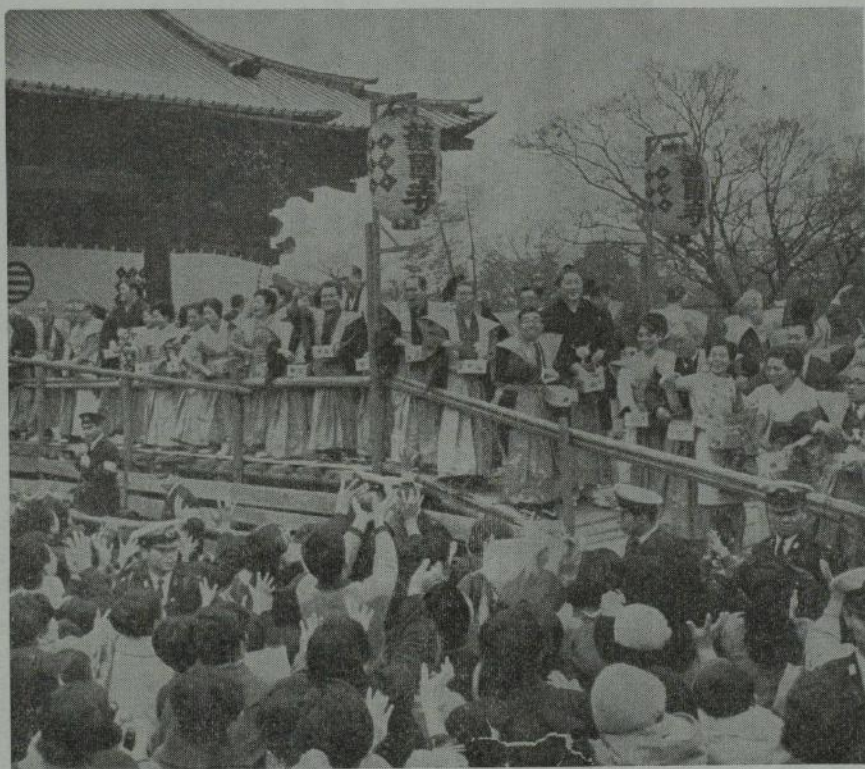


NO. 174

全 仏

2 / 47



(音羽護国寺の節分豆まき)

道ひとすじに

全日本仏教会副会長 梶 浦 逸 外



今日、わたくしが住職いたしております京都花園の妙心寺は、その昔、花園法皇さまのお思召しによって開創された寺であります。

妙心寺のご開山であります関山国師は、無相大師とも申し上げ、紫野大徳寺開山大灯国師のお弟子でありました。大灯国師は、花園法皇さまの禅の師でありまして、国師ご遷化に臨み、そのご遺言により、甘露寺朝臣藤長卿（この方のご子孫が現在の明治神宮の宮司さんです）を勅使に立てられ、関山国師を美濃の伊深からお迎えになり、花園離宮を改めて妙心寺となされ関山国師を開山として、参禅弁道なされたのであります。

このご開山さまのご修業中こんなお話が残っております。大灯国師をおたすねになる前に、鎌倉の建長寺においでになりましたが、五十の年まで一介の曇水で破れ衣をつけてご修行をなさっていたのであります。五十一歳のとき、京都に大灯国師という高僧がおいでになって、当代随一のお方だと聞かれ、京都へまいられて国師にお目にかかれますと、国師が「道中、富士山のながめはどうであったか」とお尋ねになりました。

た。するとご開山さまは「ただ道のことばかり考えておりました、富士山をながめるひまがありませんでした」とお答えになったので、国師は「慧眼蔵主こそ真の道者である」とおっしゃって大変おほめになったというのであります。それから国師を師匠と仰がれて峻烈な指導をうけて命がけの修行をつまれ、やがて国師の印可を受けられ、臨濟禅師から伝えられた大法を相承せられたのであります。このご開山さまのご日常は、まことに簡素というか、質素というか、お部屋の机の上にただ一つ、花園法皇さまのご宸翰が置かれて

総和の心もて

全日本仏教会副会長 金子 日 威



岩本勝俊新会長のもとに、梶浦逸外師と俱に副会長として、今回、全仏の御手伝いをいたすこととなったが、省みて徳薄垢

あっただけであると伝えられています。実にご開山さまのご生活は、道そのものであります。ただただ道への精進と弟子たちの指導があるばかりでありました。言葉をかえて申しますと、ご開山さまその人が道そのものであります。ご開山八十四年のご一生は、道を深くほりさげたいわゆる人間性の純粹さを磨くことと、そしてそれを伝えることに捧げられたと思うのであります。

ところで、このたび全日本仏教会副会長をおうけいたしました。全仏が現在何をなすべきか、何を考えるべきかという問題につきましても、つねに大地にしっかりと脚をおろして、しかも広く高く眼を上げていかなければならないと思ひます。世界仏教徒の一員である全仏が、今日この混乱した世界を照す唯一つの正法のともしびとして、僧俗一体、道ひとすじに生きぬきたいのであります。あらゆる問題はそこから自ずと解かれていくと思ひます。

（臨濟宗妙心寺派管長）

重の身に寔に深く重任を感ずる次第であります。倅い、新会長並びに理事長ほか俊秀なる事務局各位の協力により、真に現下の時流を洞察し、全仏存立の意義を生かした活動が、円滑且つ強力に推進されることを期待して己みません。その意味に於て、私も及ばずながら会長を扶けて、その責を究うしたいと考えております。

従来、全仏に対し種々御批判もあることを聴かぬ訳ではありませんが、全仏の組織がある限り、全仏の総力を時代と社会に注いで真価を発揮せねばならない訳です。そうしなければ、全仏は無価値な存在になりません。

仏教各宗団の総和を以て全仏を推進することが緊要であると信じます。

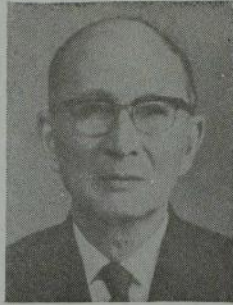
混乱と破壊、動物的人間の今日の社会と人類に対し平和の慈光と見仏の人間性発見のために、まず全仏が各宗派活動と磨擦抵抗なく活動できるような努めたいものであります。

(日蓮宗池上本門寺貫首)

御挨拶とお願い

全日本仏教会事務総長

麻 布 照 海



全日本仏教会は昨年の暮れに役員員の改選が行なわれ、私は十二月十六日に西本願寺を通じて事務総長に推選されました。

前期の事務総長は大谷派の東京本願寺伊藤哲雄輪番さんであったので、このたびは当然、築地本願寺工藤義修輪番さんが推選されるべきであります。築地は非常に多忙であるので、工藤師より私に依頼もあり、代わりに私が西本願寺より推選された次第であります。そこで前期会長であった大谷光照門主へ報告に伺候しま

したところ、兼職でなく専任でよかったと申されました。数年前になりますが、故高階瑞仙禅師が全仏の会長であった時に、私は事務総長に選任されました。

その当時の理事長は副齋信雄師で、後に義輪英章師総務局長は阿部龍伝師、組織局長は二宮清海師、後に黒田白純師、国際局長は中山理々師、文化局長は岩野真雄師であり、その他近藤隆敬、別所弘因、岩本昭典、鎌田良昭諸師が一致協力、全仏の発展に努められたので、私の任期も無事に終了させて頂きました。特に高階瑞仙禅師は度々お招き下され、拙寺へもお越し頂き大変お世話になりました。また、阿部龍伝師も何かにつけ御配慮頂きました。此処に再度就任にあたり当時を偲んで両師に感謝を申し上げる次第であります。

このたび再度大任を拜命致しますに当り、さきの時とは社会情勢も経済事情も変わっていますが、その過去をふり返り諸事を反省しながら、老生最後の奉仕として全仏発展に精進させて頂きたいと思っておりますので今後ともに宜しく御指導賜りますようお願いいたします。

さきの事務総長就任当初には学会問題で某大学教授の他派の宗意に対しての筆過事件が起きたので、その関係宗務所へ阿部龍伝師と度々訪問し、口滿に了解して頂きました。その外にも某宗の全仏脱退するとの事件もあり、これもまた口滿に解決しました。また、墓地問題とその裁判もあり、農地問題については小田原の鈴木敏範師には大変にお世話になりました。大会は静岡大会と長野大会があり、特に静岡大会では、地元の檀信徒の大動員を計画し盛大に大会が行なわれたことも深く思い出されます。国際的にはデンマークの大学に大蔵経と各宗で発行している仏書五巻を贈呈し、モスコや、キリスト教団であるスカンジナビア三国を訪れ、東西ドイツ、英国、フランス、イタリー、アメリカなどを廻り、特にローマ法王に面接し仏基手を握りお互に自己の信仰をもって平和を念願し、他

を庄することなく、国民の福祉のために精進するよう友誼を交わして来ました。しかし一番困った事は全仏負担金集めに各宗派関係団体に負担金上納を依頼することで、特に自分を推選した自宗が上納を依頼しても送金がないことで面目上非常に困ったので、このたび

の就任に際しても特にこの点を配慮するよう念を押して来ました。このたび私の事務始めは、十二月十八日に会長、副会長の推選せし宗派、寺院への挨拶廻り、二十五日は東西本願寺、智積院、知恩院、妙心寺、天台宗務所、大阪四天王寺を廻り、二十四日には香港仏教会の招きで妙法寺を訪れ、一月九日帰国、十日には局内会議に出席し、十一日は東京都内の浅草寺、寛永寺、豊山宗務所、増上寺より築地本願寺と挨拶廻りを済ませました。その間、ある宗務所では全仏の事務連絡不備のため、直立不動でお叱りを頂戴、また十日の局内会議は局長のポストが定まらず、ために、京都まで出張するなど、今期のすべり出しは快調ではない。これも前期に全仏体質改善を取り上げながら、その俣であることなどからこの難問題を受けつぎ大変である。

各宗を廻って来た所感、もっと全仏の目的やその事業について関心をもって頂きたい。全仏はその基調として、仏陀の和の精神をもって相互に緊密な連絡提携のもとに全一仏教運動の展開と、仏教による国際文化の交流を計り、仏教文化の宣揚と世界平和に寄与することを目的としているので、お互いに超我的奉仕の精神で、この全一仏教運動を推進して行かなければならないので上級宗派は互譲の精神でこの運動展開のために、もっと諸加盟宗派並びに東仏諸団体に広く門戸を開放して全一仏教運動を知って頂くようすべきであると思いました。何卒本運動の前進発展のために、一段と御協力頂けますようお願い申し上げます。

(本願寺派善福寺住職)

仏教徒の故郷へ

仏蹟参拝団九日に出発

全仏主催のインド、ネパール、ビルマ仏蹟参拝団は来る二月九日(水)十二時三十分羽田発のJAL四七一便で出発する。

一行二十三名(団長新美孝道師)は、ニューデリーを振り出しに、アグラ、ルンビニー、クシナガラ、ベナレス、カト

一隅を照らそう

奥野 覚 応
(天台宗宗務総長)

新しい年を迎え、今年こそ地球上における人間同志の争いがなくなり、平和な社会が実現されることを祈って止みません。私たち天台宗では、昨年お迎えした宗祖伝教大師千五百年の大遠忌を契機として、現代の人々に失なわれつつある人間性の回復と、明るく住みよい社会の実現を目指して、「一隅を照らす運動」を推進しております。この世の中にとって、最も大切な宝とは、世のため人のために一隅を照らして生きる人々であるとの伝教大師のお言葉は、今、社会のあらゆる立場の人から強い共感をもって迎えられ、実行されつつあります。

人間一人一人が、我は仏なり、との

マンズ、ブタガヤ、カルカッタ、ラングーンを経て、二月二十五日夜帰国する。途中、クシナガラ涅槃寺で涅槃会を厳修し、また、ブタガヤのインド日本寺の上棟法要を厳修することになっている。団長以下団員は次の方々である。

自覚をもって、互に手をとりあって浄仏国土の建設、すなわち平和な世界の実現に努力することが、人間の正しい生き方と存じます。自分の立場を他に認めさせる為には、まず相手の立場を認めることであり、「己を忘れて他を利する」心なくしては、社会の秩序と平和は保ち得ないはずで、常に自己を反省し自覚を深め、自分を含めて人間の生命の尊さを悟り、この立場で世界を眺め得る人を一人でも多くつくることこそ、現代の急務であり、そこに私たちの推進している「一隅を照らす運動」の意義があると信じています。人間の生き方、宗教の在り方が現代ほど切実に問題とされている時はないと思います。今年こそ私たちは手をとりあって、この運動の輪を大きく広げて平和な社会の実現に努力いたします。どうぞ皆様のご理解とご協力をお願いします。

新美 孝道(団長)

曹洞宗福厳寺住職

東京都墨田区東駒形三ノ千二ノ三

東 義 寿(副団長)

真言大谷派蓮得寺住職

細川 道 純(副団長)

臨濟宗瑞光寺住職

伊 東 堅 純(事務局長)

全日本仏教会組織部長

門 屋 大 寿(事務局次長)

国際仏教興隆協会国際局長

近 藤 英 雄(参 与)

全日本仏教会組織局専門委員

三 浦 義 弘(参 与)

神田寺主事

渡 辺 英 雄(参 与)

曹洞宗円満寺住職

中 里 勝 顕

岩手県一関市山目字館六

中 里 妙

日蓮宗円通寺住職

田 中 政 海

東京都港区赤坂五ノ二ノ三九

坪 井 良 栄

真言宗豊山派金乗院住職

曹洞宗光明寺住職

群馬県桐生市宮本町一六六一

石川 馨

真宗大谷派妙勝寺住職

長野県松本市大手五ノ四ノ十

細 萱 仙 祐

真言宗智山派靈瑞寺住職

大 橋 暁 了

真宗大谷派正行寺住職

清 水 六 二

北海道川上郡愛別町中愛別

隅 谷 昌 造

曹洞宗檀徒

岡 林 勝 喜

横浜市戸塚区原宿町七五六

八 幡 應 秀

大阪真理同信会々々長

東 孝 子

大阪府堺市八田西町二丁目一六八

田 中 千 春

真宗本願寺派高蓮寺檀家総代会長

宮 崎 徳 太 郎

高知県高知市朝倉乙一四四七ノ一

青 木 学 応

真宗大谷派照護寺住職

曹洞宗自性院徒弟

兵庫県富岡市中央五ノ二九九

真言宗宝仙寺住職

東京都中野区中央三ノ三五ノ三

真言宗豊山派金乗院住職

東京都板橋区富士見町三〇一

曹洞宗光明寺住職

群馬県桐生市宮本町一六六一

WF B主催 第一回国際仏教青年会議開かる

去る十二月十九日より二十五日の六日間、タイ国バンコク市において、WF B主催、第一回国際仏教青年会議が開催された。WF B日本支部(全仏)からは、正式代表として石田博信氏(龍谷大学文学部、本願寺派滋賀教区寺族仏青会員)、加藤正雄氏(神戸大学理学部、大谷派全国仏青連盟副委員長)の二名、オブザーバーとして荻野忍氏(西本願寺派宗会議員)、日谷周映氏(西本願寺派総務)、平興誓氏(西本願寺派宗会議員)、岡本肇氏(社会福祉法人誠信会指導員)の四名が参加した。WF B本部より会議報告はまだ受けていないが、下記のように参加者よりレポートが寄せられた。

会議に参加して

加藤 正雄



一九六九年の四月、マレーシアにおいて開催された第九回世界仏教徒大会の時に採択された

「国際仏教青年会議の開催」が諸般の事情でのびのびになっていたがこの程、タイ仏教会とタイ仏教青年会の努力により、ようやく開催されることになった。よって全仏から正式代表に依頼された石田君と私、それにオブザーバー四名の日本代表団は、合わせて東南アジア各国代

表団との親善、タイ国の仏教建築の視察並びに仏陀への礼拝をも目的に十二月十九日、日本を発った。

会議参加国は、セイロン、中華民国、香港、インド(ブータン、ベンガル、インド、ナグプール)、日本、カンボジア、大韓民国、ラオス、マレーシア(ペナン、セランゴール)、シンガポール、タイ、アメリカ合衆国、ベトナムである。

以下、会議期間中の行事及び日程を概略的に報告いたします。

十二月十九日。各国代表団到着。宿舎会場ザイエンタイホテルにて登録を済ませる。夜八時より各国チーフ代表が出席して準備委員会を開く。

十二月二十日。午前八時、サマサート

大学々生の案内により、王宮横にあるエメラルド寺院(ワット・プラケオ)に参拝する。午前十時、開会式。タノム民政

府首席による開会の辞のあと、高僧による五戒授与が行なわれ、つづいてWF B会長ブーン妃陛下の報告があつて、最後に参加各国代表団が紹介された。そのあとWF B本部主催の昼食会がもたれ午後一時からホテルの会議場にて総会に移る。まず、WF B会長の挨拶、議長副議長その他役員を選出を行なったあと、三つの分科会を構成する。三つの分科会とは、(一)いかにして若者に仏教をひろめるか。(二)若者に対する仏教の役割とは何か。(三)仏青運動拡大に当ってWF Bは何をなすべきか、の三である。つづいて各支部よりメッセージが述べられ、日本代表の石田君が次のように行なった。

「日本においては、近年、日常生活の中に仏教の指導性が薄く、私達仏青は講演会討論会あるいは社会的奉仕、さらにはレクリエーションを通じて活動を行なっているが、数多くの問題点を有し、仏青に参加する若人の少ないことは残念で

ある。しかしこのようなことは日本だけに限らないと思うので、こういう会議を通じて互いに研修し合い、仏青活動をもっと強力にし、あらゆる機会に若人にその必要性をアピールしていくことが私達の使命であると思う」と。

最後に会議直前に亡なられたタイ大僧正に哀悼をささげて、四時ごろ閉会した。

夜はホテル会議場にて、ラウイ・パビライ博士の講演を聞く。

十二月二十一日、午前九時より総会。

各国代表により支部報告、私は「戦後の日本では、高度経済成長が都市化、核家族化という大きな社会変化をおこした。と同時に豊かな物質的な生活と余暇時間を作り出した。しかし一方では、個性の喪失、人間疎外、世代の断絶、さらには宗教と共同生活という自覚の喪失等の現象となつてあらわれた。また、仏青活動も物質的にも時間的にも恵まれた時代であり、現代ほど仏教の必要な時はないと思う。にも拘らず沈滞状態にある。そこには、現代の若者の仏教に対する考え方や、サークル活動等に入りたがらない風潮等、幾多の問題をかかえている」と現況報告をした。つづいて分科会に入り、ディスカッションする。

午後からは、バンコク郊外、ナコン・パトム市にあるブラ・パトム・チェディのパゴダを参拝する。これはタイ国最大最古で、高さ百十五丈という驚嘆すべきものである。

午後七時、タイ国仏青連盟の主催による歓迎晩餐会がチェラロンコーン大学同窓会館にて行なわれ、タイの古典舞踊、剣舞、棒術、古典音楽、キックボクシングなどを観賞した。

十二月二十二日、八時より分科会。二時から第一分科会からの報告を討議し、その報告の採用を決定する。午後五時より、マーベル寺院にて比丘の夕べの祈りをきく。六時半より、タイ仏教協会にて晩餐会。

十二月二十三日、総会。第二、第三分科会からの報告を討議し、報告を採択する。二時より閉会式を行ない、WFB会長との挨拶のあと、土産物の交換を行ない、さらにIBYC名簿にサインす



(開会式のもよう)

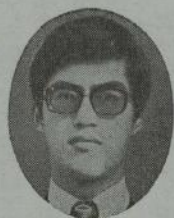
る。夜は映画を鑑賞する。

十二月二十四日、バンコクから約百キロ東南のジョルブリのジッタパハン仏教大学を訪問し、図書館等を見学し、学長とも会見する。そこで昼食をとり、のち、保養地海水浴場として有名なバンセングへ出掛け、海水浴、ヨット、サイクリングを楽しむ。

そして十二月二十五日、帰国の途についた。

日本で開催を!

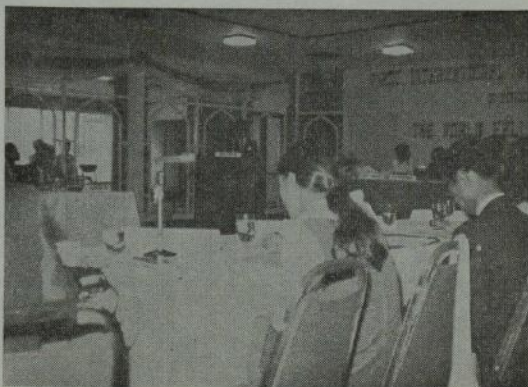
石田 博 信



会議は主に二十日から二十三日までの四日間、朝八時頃から夕方三時頃まで続き、その他、寺院参拝、夕食会、歓迎会等のプログラムで、滞在期間中一息つくひまもない程ギッシリと組まれたスケジュールでした。実際何か土産物でも買いながら市内見物でもしてみようと思っても、時間がなく、ホテルの周辺の店をのぞくばかりで、しかもその時間というものが、夜の十時以降ということで、大半はホテルの自室で翌日の会議の準備をしたり、同室の者同志で雑談したりしていました。もっともプログラムの中に、いくつかの観光が含まれていましたが、欲をいえば自由に観光したり、各国代表団と雑談し

たり出来る時間が、もう少しほしかった様に思いました。

さて、会議が開かれて、まず驚いたことは、タイに来る前には参加者の年齢制限は十五歳から二十五歳までの青年ということでしたが、実際には約半数がどう見ても二十五歳以下の青年には見えなかった事でした。しかも発言者の多くは、そのどう見ても二十五歳以下には見えな人々によつてなされ、この会議は青年会議ではないのではないかという疑問さえ生まれ、ちよと隣りに居た香港代表の人も全く同感であるといっていた程でした。さらに、各国参加者の発言のほとんどが、よく聞きとれなかったことでした。わずかにハワイ代表と会議の記録係をしてもらったDR・ニッター・ソニアサという方の発言が聞きとれた程度でした。というのは会議は全てを通じて英語で行なわれたのですが、その英語が各国様々で、特に発音などは非常に異なっていて、しばらくは全くといっていい程、何を発言しているのか、理解できない状態でした。そのような訳で、私にとっては各国代表団の世話をしてくれたタイ国の大学生たちと会議の合間に雑談している方がずっと楽しく、有益である様に思われた。しかし会議は各国からのメッセージ、レポート、そして分科会と進み、いくつかの議決事項や提案事項が提出され、採択された。その内容のほとんどは、第一回会議という名にふさわしく、この会議の今後のあり方や、各国共通と思われる



(総会でメッセージをのべる石田君)

諸問題の提出、およびその解決法の提案といった様なものであった。

また、三分科会の中、第二分科会において、私が議長に指名され、「青少年問題解決における仏教の役割」という議題のもとに話し合ったのですが、その時感じたことは、どの国においても青少年問題の根源的な所は同じである。たとえば世代の断絶、SEX問題、特に墮胎、経済等、その程度の差および具体的な形というものは違っても、各国の悩みは同じである。特に現代のような、刻一刻と激変している世の中において、仏教を若者の間にどのように広めていくかという問題は最も共通した悩みであった。しかも、それを積極的にこなっていくためには、世代の断絶という一番難解な問題

を解決しなければならぬという悩みも全く共通したものであった。

会議中、何等具体的な話し合い、解決がなされていなかったけれども、同じように仏陀の教えを聞く者として、同じ悩みがあり、また、それを一つ一つ解決していくことが、われわれ若者の使命であると、再認識できただけでも、私にとっては非常に有意義であったと思う。

最後に、この会議がいつか日本において開催され、より多くの日本の若者が参加し、世界の若者と仏教の将来について語り合うことが出来ることを願いながらタイ国をあとにした。



(総会で採択に挙手する日本代表)

事務総局人事決まる

去る十一月十六日開催された常務理事会において、理事長に一任されていた事務局人事が、このほど決定した。

- 事務総長 麻布 照海(本願寺派)
- 総務局長 桜井 大乘(曹洞宗)
- 組織局長 新聞 信雄(日蓮宗)
- 国際局長 鱒淵 正浩(浄土宗)
- 文化局長 柳 了堅(大谷派)
- 総務部長 小沢 照禧(智山派)
- 組織部長 伊東 堅純(豊山派)
- 国際部長 黒川 孝樹(大谷派)
- 文化部長 阿部 顯瑞(曹洞宗)
- 総務主事 林 恵智子
- 組織主事 杜多 茂夫
- 国際主事 北山 孝雄
- 文化主事 名倉 好子
- 職員 服部 光順
- 職員 蜂谷 幸子

インド流入東パキスタン難民救援金感謝録

(第三次分、昭和四十七年一月二十五日現在)

- 一、金壹千四百拾円 仁愛女子短期大学 学生会
- 一、金六千四百拾五円 札幌女子高校

- 一、金参千円 法華経寺
- 一、金貳千円 禅林寺
- 一、金貳千円 大谷大学
- 一、金四万五千六百円 大阪府仏教会
- 一、金貳千円 智山派下総香取教区宗務所
- 一、金貳千円 八日市場仏教会
- 一、金貳千円 千葉県曹洞宗務所
- 一、金貳千円 智山派上総第四教区宗務所
- 一、金参千円 柏市仏教会
- 一、金貳千円 習志野市仏教会
- 一、金参千円 智山派西窪教区宗務所
- 一、金五千円 千葉市仏教会
- 一、金参千円 千葉県豊山派第一号宗務支所
- 一、金参千円 船橋市仏教会
- 一、金貳千円 浄土宗千葉教務所
- 一、金参千円 真宗大谷派千葉組
- 一、金貳千円 智山派安房第四教区宗務所
- 一、金参千円 千葉県豊山派第四号宗務支所
- 一、金貳千円 智山派安房第二教区宗務所
- 一、金貳千円 智山派下総海銚教区宗務所
- 一、金参千円 智山派下総印旛教区宗務所
- 一、金五千円 松戸市仏教会
- 一、金貳千円 智山派安房第三教区宗務所

譲りたし!

- 海北友松画観音図水墨絹表装三万円
- 慈雲(欽光)書一行紙本大桂装 拾万円
- 北野元峰書紙本緞子鎌倉彫軸美品 六万円
- 広川弘禪画並賛紙本紙美品 壹万円
- 永代御江戸絵図弘化二年版70C×70C 彩色美品 一、五万円
- 山岡鉄舟書紙本緞子表 三万円
- 増上寺八二世性書書六字名号 紙本紙装 壹万円
- 貫名稜翁書七絶詩紙本緞子装三万円
- 唐宋詩醇五冊秩入浙江書局版五千元
- 玉蟬画観音像絹本緞子装美品五万円
- 達磨図芳華画不折賛淡彩 絹本緞子 四万円
- 詳細照会乞う
- 〒九七二〇一 いわき市上遠野局区内 東光寺
- 振替口座 郡山三八一九番

花まつりを統一ポスターで

一月号に既報のように、花まつりを全国的に盛り上げるため、統一ポスターの頒布を実施することになった。

これは従来、東京都仏教連合会が作製していたものを、ポスター下方の文字をなくして余白のままとし、各自随意にご利用頂けるようになっていた。多部の場合は、その余白部に主催者団体名の印刷もご相談に応じます。

荘厳味豊かな、カラフルなもので、市町村仏教会等の主催される花まつりに利用して頂きたい。

頒布価格は、一枚五十円 送料別
五枚以上は送料当方負担

全仏新年懇親会

東京で盛会

昭和四十七年「全仏新年懇親会」は去る一月二十四日、芝の東京プリンスホテルにおいて約七十名が集い盛大に催された。今年役員改選後でもあり集った顔ぶれは多少変った。新聞組織局長の開会

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日 花まつり



東京のお誕生日は4月8日

の辞に始まり、金子日威全仏副会長（日蓮宗管長）を導師に三冊依文の唱和、岩本勝俊全仏会長（総持寺貫首）、星谷慶縁理事長（真宗大谷派宗務総長）、麻布照海事務総長（浄土真宗本願寺派）の挨拶に続き、来賓の祝辞を頂戴した。まずセイロン大使A・バスナヤケ氏、ネパール大使P・C・タクル氏、永野鎮雄師栗本俊道師、大韓仏教在日弘法院長李行願師の首領により乾杯して会食に移った。この間に松本徳明師の真言祈祷の話が出来れば、おかしに成田山新勝寺総務種貫照澄師のユーモアある挨拶を頂戴しながら会はなごやかな雰囲気の中に桜井総務局長の閉会の辞で幕を閉じた。なお、二十四日は真言各山会のため、真言各宗の宗務総長が欠席されたのは大変残念なことであった。



お寺に仏旗をかかげよう

大	たて 150C—よこ 247C	¥ 4,500円	小	70C—100C	¥ 1,400円
中	90C— 135C	¥ 2,500円	手旗	35C—100C	¥ 300円

もめん 別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)
各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

111 東京都台東区西浅草1-5-5

電話 03・843・6341~3

昭和四十七年一月一日発行
二月号第一七四号

発行人 麻布照海

編集人 阿部顕瑞

発行者 財団法人
東京都台東区西浅草1-5-5 (東京本願寺内)
全日本仏教会